

2023

Annual Report



Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶 2

活動地紹介 3

海外活動報告 6

バヌアツ共和国ペンテコスト島 6

フィリピン共和国カオハガン島 13

国内活動報告 27

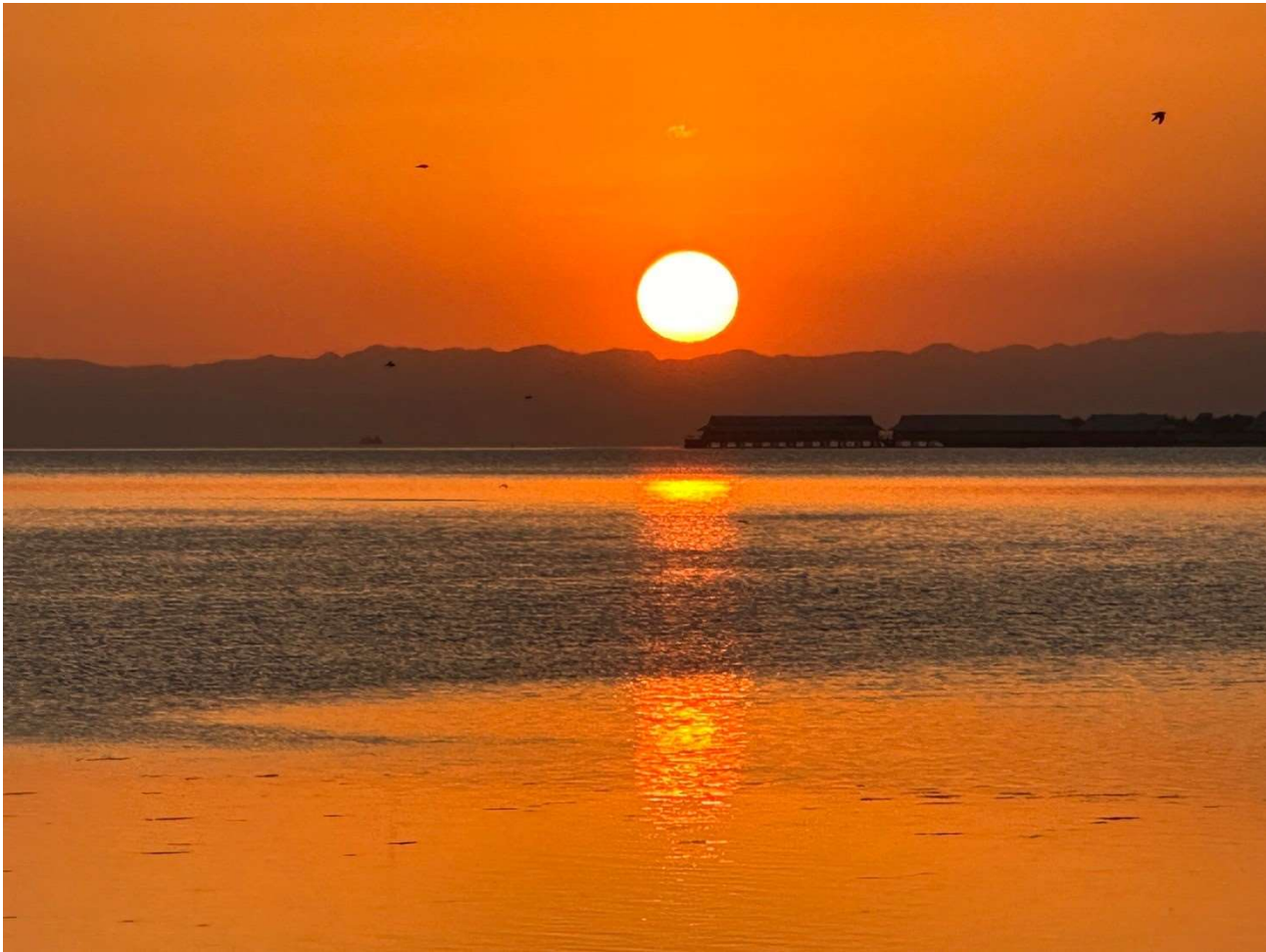
国際理解教育～JDM の活動を通して～ 28

海外活動参加者感想文 30

2024年度 海外活動予定 44

ジャパン デンタル ミッションについて 45

協力者名簿 46



代表理事挨拶

代表理事 沢田 宗久

2023年度は、やっとコロナも落ち着きを示しましたので、バヌアツ共和国ペンテコスト島での歯科医療奉仕活動も再開することができました。3年間のブランクがあり、機材の現地の管理状態が心配でしたが、どの機材も稼働することを確認できてホッとしていました。

今回は、青少年育成として小学4年生と高校3年生の2名がペンテコスト島の活動に参加しました。彼等の仕事は現地でフレンチ系の小学校の歯科健診の記録係とドネーショングッズ（歯ブラシ・鉛筆・文房具・タオル・サッカーボール等）を小学校の生徒達に配ったり、また八尾市立竹濠小学校5、6年生の作った折り紙の交換会をする為に、現地生徒達に折り紙を教えたり、積極的に手伝っていました。

フィリピン・カオハガン島での活動は今年度で70回目となりました。3月の活動の時にラプラプ市の市長に表敬訪問をさせて頂き、長年に渡るJDMの活動にご理解とご協力を示して頂いた事は大変心強く思いました。

JDMの活動にご支援を頂いているロータリークラブのガバナー補佐の上田勝嗣様が、2021年12月のフィリピン台風被害復興支援の視察とJDMの活動支援の為に3月に参加されました。特に被害の酷かったパンダノン島にラーニングセンター（学校に行けない子ども達の補助施設）設立をNPO法人ゴーシェアの協力のもとで、大阪船場ロータリークラブが寄付を行いました。JDMは歯ブラシ・タオル・石けん・Tシャツ等をドネーションしました。

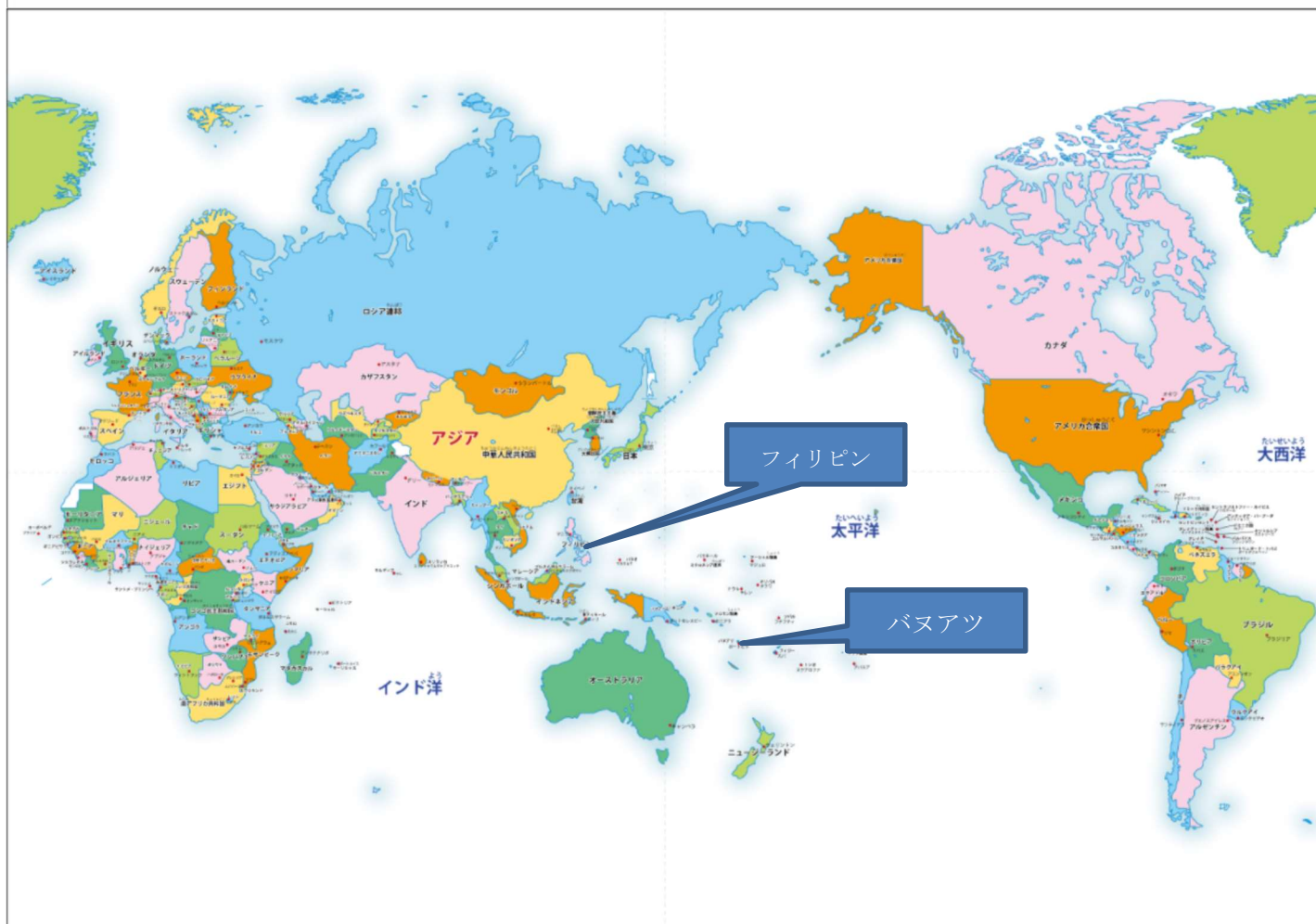
4月13日（土曜日）に大阪中之島の国際会議場において、ロータリーが主催するロータリーデーが開催され、「国際奉仕活動と青少年育成」と題し、基調講演を行いJDMの活動の話をしました。その中で、JDMのメンバーで以前活動に参加した、川田恭平先生と土井薫先生が自分の体験談を話して下さいました。ご来場の皆様は大変感銘を受けていました。

私達の活動の軌跡は小さいものですが、ボランティアに参加したメンバーそれぞれが成長し、多くの人々を助ける職業に就いていたり、教育の現場で活躍してくれていたりと大変誇りに思っています。

こうして、若者へと活動が受け継がれて行くことは、多大なるご支援を下さる皆様があってこそ、活動が継続しています。皆様方の心温まるご支援ご協力に心より感謝申し上げます。



活動地紹介

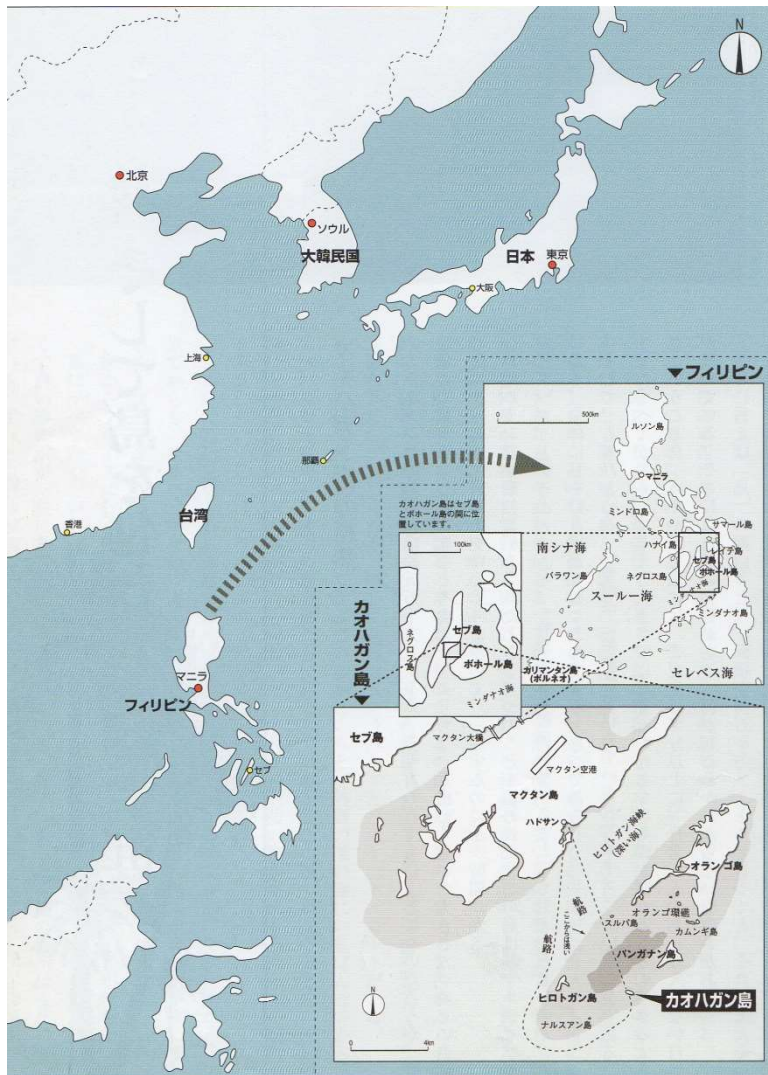


バヌアツ共和国



紹介：約 83 の島々から成り立つ
人口：約 29 万人
首都：ポートヴィラ（エファテ島）
言語：ビシュラマ語、英語、仏語
通貨単位：バツ（1 バツ＝約 1 円）
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：70 歳
生産物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活動地：ペンテコスト島

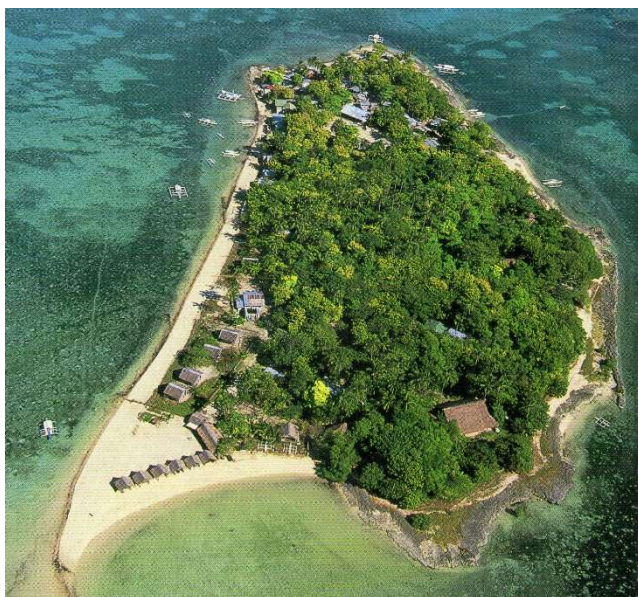
フィリピン共和国



紹介：7,109の島々から成り立つ
人口：約1億100万人
カオハガン島の人口は約650名
首都：マニラ（ルソン島）
言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語
通貨単位：フィリピンペソ（1ペソ＝約2.5円）
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：71歳

生産物：バナナ

活動地：カオハガン島



海外活動報告

バヌアツ共和国ペンテコスト島

場所 バヌアツ共和国・ペンテコスト島

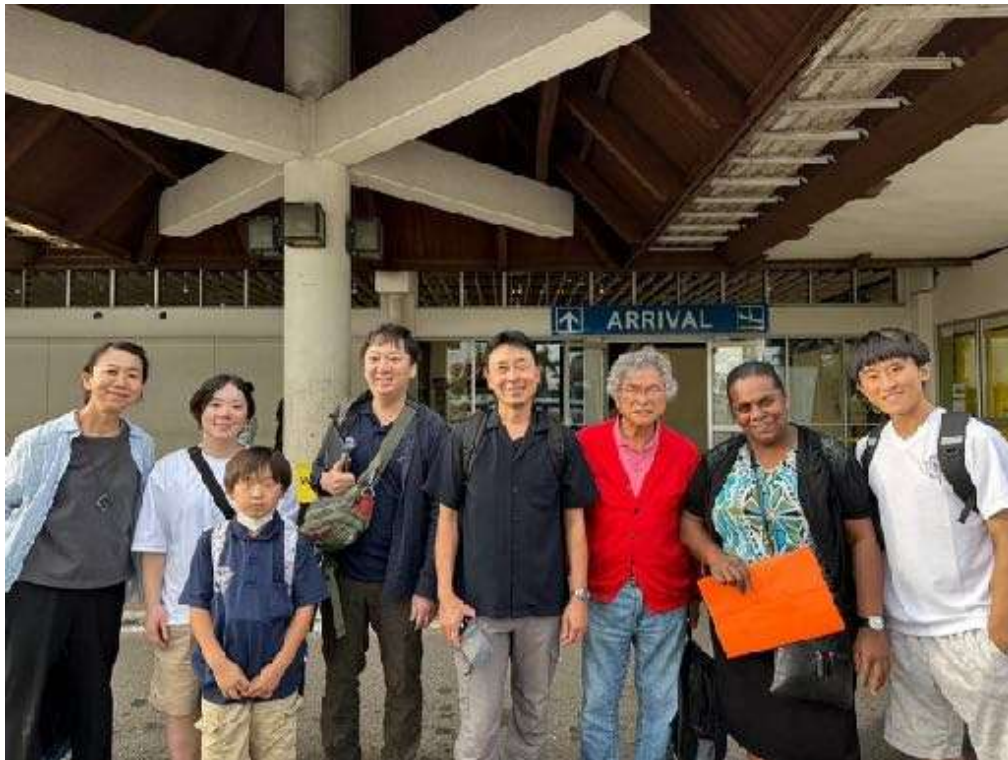
期間 2023年7月12日～7月17日

参加メンバー

左から)

小西 あゆみ (DH) 菊島 優香 (DH) 関根 龍勢 (Vo) 関根 淳 (Dr)

佐々木 正志 (DT) 沢田 宗久 (Dr) ローダ ブルー (Dr) 土井 一輝 (Vo)



COVID-19により中止されていたバヌアツでの活動が3年振りに再開された。

この3年間のうちに大統領が変わり、保健省の体制が大きく変更された。我々が活動しているペンテコスト島はペナマ州に属しており、長らく設置されていなかったペナマ州保健管理官に、マクソン氏が就任し、我々の活動地域であるペンテコスト島を管轄する事となった。

また、長年JDMの担当をしていた保健省ラッセル氏が急病のため退職し、急遽バヌアツ政府との連絡が数ヶ月途絶えた。過去にJDMと関わった別の政府関係者に接触を試みるも、3月のサイクロンの影響により政府のEメールシステムがダウンし、電話も繋がりにくくなった。

このため、バヌアツ在住、いつもJDMの活動に協力して頂いているメラネシアンホテルの土山氏に協力を依頼し、直接保健省に足を運んでもらい、ラッセル氏の後任Dr.ローダと連絡を取ることができた。

7月12日(水)

11日、関西、関東出発チームが成田空港で合流しフィジーへ。今回飛行機に持ち込み可能な荷物を超えたコンテナは事前にバヌアツに送っていたため、大きな混乱は無くスムーズにチェックイン出来た。

しかし、バヌアツに送った荷物に関しては医薬品の輸入ルールが厳格化されており、未だ DHL の倉庫から受け取ることが出来ていないことが判明した。また、手荷物で持っていくコンテナの中の薬品も、許可がないとポートビラの空港から出せなくなることが判明した。

フィジーのナンディ国際空港にてオークランドから参加の菊島さんと合流、ポートビラに 12 日午後 4 時ごろ到着し、活動が始まった。

Dr ロードとは何ヶ月も前から免税書類作成の依頼をし、書類を提出していたが、当日ギリギリで医薬品持ち込みの許可が出て全ての荷物を受け取る事が出来た。

後に、バヌアツではボランティアの受け入れビザや許可証を発行する担当者が 1 名しかおらず、災害のたびに救援国の海軍やボランティアのビザや許可証が間に合わなくなる事が分かった。空港にて Dr ロードと合流し、メラネシアンホテルへ。夕食を食べながらミーティングとなった。



7 月 13 日 (木)

早朝飛行場にて Dr ロード、ローリー氏とミーティング。既にペンテコスト島に迎えが来ているとのこと。政府としてオーラルヘルスプロモーションに最も注力しているため今回は小学校 2 校の検診と歯磨き指導を依頼されたが将来的には学校を増やしたいとの事。

その後ペンテコスト島へ。この日は暴風雨で悪天候のため、パイロットから 3 名降りる様にリクエストされた。しかし、次の便は土曜日まで無い。保健省職員ローリー氏、Dr ロードと空港職員の交渉の結果、メンバー全員ペンテコスト島へ行けることになったが、重量を減らすために荷物は載せれないとの事。既に出発時刻を大幅に過ぎ、ファイナルボーディングコールが過ぎていたため、慌ただしくメンバー全員で出発した。

ペンテコスト島到着後、荷物を確認すると、JDM のコンテナ、個人のスーツケースを含め全てポートビラ空港に置いて来られてしまった。これでは活動できないため、ローリー氏、Dr ロード、土山氏に協力を要請し、急遽小型機をチャーターし、荷物を送り届けてもらうことになった。しかし、前大統領がペンテコスト島出身のため、中国とペンテコスト島 1 周の道路を建設する契約をしており、チャーター機が中国道路建設職員達に押さえられており、なかなか見つからない。土山氏が奔走し、1 番早く飛べる小型機エアタクシーとパイロットを確保し、なんとかその日の午後荷物





が届くように手配してくれた。

ペンテコスト島に着いた我々は、荷物が無いままパンギ村へと向かった。3年前に残してきた保険センターのゲストハウスにあるコンテナを確認し、診療所準備に取り掛かった。懸念していた発電機は何度もハリケーンや地震の災害があったにも関わらず、村人たちが守っていてくれた。しかし、変圧器や電源コードなど細かいもの数点が無くなっていた。

今後の予定を確認するために、保険センター助産師とミーティング、2校学校検診予定だったが、残念ながらパンギ小学校は今週休校のため、ラングスクスク小学校の学校検診

と文化交流を行う事となった。物資の寄付は2校。

午後、土山氏が手配したエアタクシーにて全ての荷物がロロノレ空港に届いたが、DH 小西のスーツケースが似たデザインのオーストラリア人の物と入れ替わっていた。届いた荷物を空港からパンギ村の教会に運び、往診用ユニット、変圧器などを接続し、夕方治療の準備が出来た。保険センター職員グラハム氏のう蝕治療、義歯印象などを行い、1日目の活動終了となった。



7月14日

ラングスクスク小学校が8時からとの事で、時間を無駄にしないために早朝から食事を済ませ、小学校へ。歓迎のセレモニーを受け、歯ブラシ、筆記用具、サッカーボールなどを寄付、その後歯磨き指導を行なった。

折紙や切り絵などの文化交流をしながら、幼稚園、小学生109人の歯科検診を行う。昼前に全てのプログラムを終了し、パンギ村へ戻った。



昼食後は教会にて診療。3年間歯科治療を待ち望んだ村民で、終了時間が過ぎ暗くなってからも教会は患者で溢れ返っていた。バヌアツでは街灯がなく、家がジャングルの中にあるため、暗くなると人々は自然と家に帰るのだが、今日は違った。



7月15日

朝から診療。

昼休憩時に保険センターへ。以前から理事会でオートクレーブの導入を求める声が上がっていたため、保管場所の調査へ。雨風を凌げる場所はワクチン用の冷蔵庫や医薬品の保管場所でスペースがない。薪で炊くタイプの鍋型オートクレーブがあり、人手と雨天でなければ使用可能か。

しかし、保険センター敷地内の丘の上に新たにクリニックの建築が始まっており、完成すれば我々の活動場所も教会ではなく、クリニックになり、オートクレーブも置けるようになるかもしれないとの事。経過を見守りたい。

午後も夕方まで診療し、予定時間に終了となった。



7月16日

午前、撤収作業へ。教会を綺麗に掃除し、ペンテコスト島に置いて行くものを丁寧に梱包し、村人と協力して保健センターのゲストハウスに戻した。日曜日は小さな店や食堂も閉まり、村は完全にオフの状態。

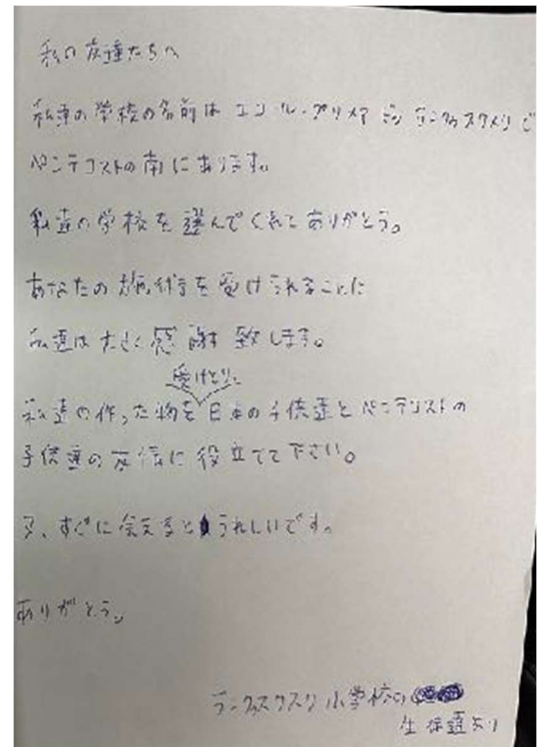
パンギ小学校が休みのため、校長が来院し、歯ブラシ、筆記用具、タオル、サッカーボール等の寄付を行なった。





空港への帰路、ラングスクスク小学校に立ち寄り、バスアツの子供達の作った切り絵を受け取った。細かい貼り絵となっており、心温まるメッセージがフランス語で書かれていた。

暴風、豪雨、虹、晴天が1時間おきに繰り返すような天候のため、早めにロロノレ空港へ。付近の滝を散策したり、各々自由に過ごしたが、チャーターした飛行機は予定より20分程度早めにやってきた。暴風雨の中、ロシア人パイロットの操縦は丁寧で無事ポートビラに戻り、政府の用意したバスでメラネシアンホテルに到着、数日ぶりの温水のシャワーで疲れを流し、皆で夕食を食べ、就寝した。



7月17日



午後の飛行機まで時間があるため、午前は自由行動。

空港はコロナ前に比べ、キャパ以上の旅客を収容し、人で溢れていた。飛行機の遅延が常態化していたが、無事フィジー便に乗り、日本への帰路に着いた。

今回、小学4年生と高校3年生のボランティアが参加した。2人とも掃除やカルテの記入、片付けや文化交流などの活動を精一杯手伝ってくれた。小学生の龍勢は歯科治療に興味を持った様で、日本に戻ってから親のクリニックで何か手伝える事はないか、自分から動くようになった。

高校生の一輝は本当の自分の価値に気づき、学校生活に戻り、受験勉強を頑張っている。高校3年の夏という貴重な時間は無駄にならなかったようだ



フィリピン共和国カオハガン島

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2023 年 11 月 1 日～11 月 5 日

参加メンバー

(上段左から) 嶋村寿美江(H) 羽邑紗智子(H) 津田香織(H) 石井聡美(V) 倉橋朋子(H)

(中段左から) 吉村理瑚(H) 長谷川玲子(V) 杉村潮美(H) 垣内万智子(H) 筒井優佳(V)

(下段左から) 崎山さん(カオハガンオーナー) 大澤一雄(D) 瀬野耕司(D) 沢田宗久(D)





活動内容

11月1日（水曜日）

日本からの本隊 成田からセブのフライトが、前日からフィリピンエアーの遅延が影響して出発時刻が2時間ほど遅れる。予定より2時間遅れの21時頃 マクタン空港に到着。

前日入りや台湾やオーストラリアからのメンバーとトッペルさん、ゆうこさんと無事合流しカオハガンへ。到着が遅くなったので、部屋割りをして就寝。

11月2日（木曜日） 晴れ





朝からセブ在住の衛生士 羽邑さんが合流し、メンバー全員で朝食。その後ミーティングで役割分担を決めて、9時からバランガイホールで準備し診療していく。
今回はリピーターが多く、順調に準備することができた。



1日の祝日、お墓参り(ハロウィン)に、選挙(仕事休まないといけない、ショッピングモールなども休み)が重なり、この週は連休になっていて、患者さんは少なかった。
治療に来てくれた患者さんはカオハガン島民が多く、クリーニング希望が多かった。



夜は恒例のたこ焼きパーティーでしたが、タコがなくて、かわりにイカで代用。思いのほかイカの方が美味しかった。

11月3日(金曜日) 晴れ

D沢田、DH杉本、DH羽邑、V筒井、V石井が小学校へドネーションに。
歯ブラシ・クレヨン・タオル・画用紙を。



D瀬野、DH倉橋、カオハガンハウスのゆうこさんが小学校の先生とフッ素洗口についてのミーティング。前向きにフッ素洗口していくとのこと。

診療はゆったりと始まったが、ドネーション後の小学生と島外の患者さんが来て、いつものバタバタした診療に。



小学生は 今回から日本でいう中学2年生までカオハガン島で授業できるようになったので、検診人数は多いはずなのだが、この活動期間は、小学校が休みのため全生徒の検診はできなかった。先生が呼びかけてきてくれた生徒の検診をして、シーラントやフッ素ジェルを塗布した。

午後の最後に治療後、腫れたと再来院し、切開などの処置で少し診療時間が延長したが、それ以外は無事に診療できた。



11月4日（土曜日） 朝 雨

少しゆったりとした診療。診療をしながら、撤収作業を少しずつ進めていく。

時間内に撤収作業が終わり、午後からは各自アクティビティを。



シュノーケル・マッサージなど、少しの時間だが思いのまに過ごす。

4時ごろからPontogで運動会。リレー・ビーチフラッグ・騎馬戦・玉入れ・綱引きを。

毎回思うことだが、カオハガンの子供たちの運動能力の高さにはびっくりする。騎馬戦が盛り上がった。

運動会担当 V 長谷川、V 筒井のおかげ。



そして恒例のマンゴーパーティー、シャコパーティー、セブでのおかゆ、パンなどご馳走してくれた D 沢田、D 瀬野に感謝です。今回 D 大澤がデンタル持参してくれていて、何度が活用でき、こちらも感謝です。

今回の天候は晴れに恵まれましたが、風がなく、カオハガンの気候に慣れているよしえさんや、ゆうこさんも大汗をかくほどの蒸し暑さ。 balan g ai ホールもその暑さを覚悟しましたが、村長はじめ 周辺の島民の扇風機を各部屋に提供してくれて、快適に診療することができました。扇風機をお借りしている間、暑さを我慢してくれた島民の方に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

診療人数は少なかったですが、いつも島外患者が多く、カオハガンの島民は治療を希望していても遠慮していることが多かったのですが、今回そんな遠慮していた島民が来てくれました。それもほとんどがクリーニング希望、そして全顎きれいな歯の人が多くチェックアップをしながら、ひそかに喜んでいました。

口唇口蓋裂のジッピーが、オペ後の状態を母親と共に見せに来てくれました。シャイな彼ですが嬉しそうにいい笑顔でした。飲み込みトレーニングなど大変だろうけどカオハガンのみんなが支えてくれるでしょう。



帰国時のアクシデントはありましたが、無事に帰国。

総括

コロナの間 JDM の活動が中断されていたためか、今年の3月に続き、今回も多くの方が訪れ朝から忙しく診療をしました。

特にカオハガンの近隣の島からの来訪が多かったです。

カオハガンの住民の口腔内の状況は他の島の住民より良好で、この傾向は訪問する度に強く感じられます。

このことは JDM の長年の活動の成果であると考えます。

又、器機の大きなトラブルなどもなく順調な活動ができました。

活動に際して入念な準備をして頂きました全ての人に感謝しています。

ありがとうございました。

瀬野耕司

データ

	2日	3日	4日	合計
抜歯	79本	108本	13本	200本
CR	11本	27本	3本	41本
シーラント		18本		18本
SC	39人	40人	14人	93人
フッ素塗布		57人		57人
チェックアップ		1人		1人
義歯修理	3人	2人		5人
研磨	1人			1人
オープン		1人		1人
咬合調整		1人		1人
消毒			1人	1人
人数	73人	156人	21人	240人

島別受診者	
カオハガン	177人
パンダノン	15人
パガンアン	7人
コルトバ	11人
ラブラブ	3人
ボホール	7人
カブラン	12人
サンタロッサ	1人
合計	233人

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2024 年 3 月 19 日～3 月 24 日

参加メンバー

(上段左から) ゆうこ(カオハ) 谷口真結子(D) 倉橋朋子(H) 栗山雅行(V) 上崎秀美(D) 羽邑紗智子(H) 沢田宗久(D) 難波智津子(D) 嶋村寿美江(H) 斎藤あすか(H) 瀬野耕司(D) 岡本社長(機械メンテ) マイケル(機械メンテ)

(下段左から) よしえ(カオハ) 高橋ひとみ(H) 植木亮裕(V) 難波琉太郎(V) 近藤恵(H) 向井まち子(H) 上田勝嗣(V) 大石胡花(V) 中津川昂平(D) クリスティーナ(機械メンテ)



活動内容

3月19日(火曜日)

フライトの大きな変更もなく、セブ・マクタン空港 19 時 30 ごろメンバーと合流
機械メンテのため、マニラから来てくれたマイケル、クリスティーナとも合流。カオハガンハウスのゆうこ、トッペルたちとバンで移動し埠頭へ。埠頭でリーダーの上崎と合流しカオハガンへ。潮が引き始めていたので、大事を取って外回りで上陸。
到着後、事前にカオハガンハウスが部屋割りしていたので、ロッジなどに荷物を運んでもらい、夕食と簡単なミーティングをして就寝。



3月20日（水曜日）

セブ在住の DH サチが合流。朝食後、準備等の説明している時に急遽予定していたバランガイホールの2階の使用が禁止になり、(耐震性に不安があり、抜歯ルームとして使用はできないと村長判断) バランガイホールの配置は以前のままにして、オートクレーブはテント下の野外に設置となった。



午前診療はメンバーで準備を開始し、順次問診、治療と進んでいった。DR 瀬野が発電機・オートクレーブを担当、日本から同行してくれた岡本社長、マイケル、クリスティーナも活動に参加してくれ、マイケルやクリスティーナの患者への優しい誘導や説明にとっても助けられた。診療は、前日から来島していた周辺の島民たちが治療に来ていた。人数も多く、抜歯・充填・クリーニングのどれか一つにしてもらい、できるだけ多くの患者を診れるようにした。



午後診療は、小学校に DR 沢田、V 栗山、V 上田、V 植木が歯ブラシ・タオル・ノートなどをドネーションに。



フッ素洗口についてのミーティングは、最終日に予定していたが、小学校の先生たちの予定があり、20日の午後しか時間が取れなかったもので、こちらも急遽 診療をぬけて DR 瀬野 DH 倉橋 カオハガンハウスゆうこ校長、8 学年の先生、2 名の保護者代表と フッ素洗口 歯ブラシについて 話し合う。

問題となったのは、以前は雨水をためて生活用水として使用していたが、ここ数年、鳩が増え水質が悪くなく、現在は購入した水(ミネラルウォーターや井戸水)を使用しているとのこと。水不足のためフッ素洗口以前に歯ブラシもあまりできていなかったとのこと。解決策を DR 瀬野と DH 倉橋が提案し、今後実践していくと決まる。



午後の診療は午前に来なかった患者が待っていて順次治療していき、夕方ごろには各島に帰ってしまって17時を前に患者が途切れるが、次の日の準備をして終了。夕食後次の日に帰ってしまう岡本社長・マイケル・クリスティーナのために、たこ焼きパーティーを前倒しして開催。楽しく過ごす。



3月21日（木曜日）

朝、全員で集合写真を撮った後、岡本社長・マイケル・クリスティーナが帰る。
DR 沢田、V 上田、V 栗山、カオハガンハウスゆうこが市長への表敬訪問へ。
市長からの活動の許可が取れたとのこと。

balanガイホールの治療は、午前中は前日と同様多く、13時ごろまで延長して治療となる。各自で抜歯、充填、クリーニング、チェックアップ、滅菌と分担して診療する。

午後の診療も同様15時30頃から患者が少なくなり、時間通り17時で終了



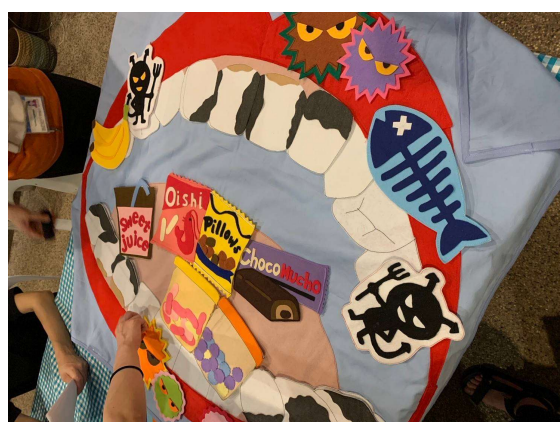
3月22日（金曜日）

DR 沢田、V 栗山、V 上田がパンダノン島へドネーションに。パンダノンからの患者が今回カオハガンに来ていなかった。ドネーション時にD r 沢田が島民に聞いたところ、来島するための船のガソリン代がないためだったとのこと。



DH 嶋村、DH 倉橋、DH 近藤、DH 斎藤、V 大石、V 植木が小学校への保健指導に。

DH 嶋村が時間をかけて作ってきた媒体を使用し、前日の夜に練習して臨む。今回はカオハガンの子供たちがお馴染みのチョコムチョという人気のチョコバーや、グミなども作成してくれて、音楽に合わせてみんなで歯磨きをした。



保健指導が終わり、キンダーから順に balanガイホールの外で歯科検診をしていく。キンダーから5年生まで午前中に行い、午後には6年から8年まで検診していった。

一般診療と併行しての検診で、数人治療する小学生を優先して診療していった。午後16時ごろDHサチがセブに帰る。夕食は、コテージの広場でバーベキューを開催、同時にマンゴーパーティーも開催。いつもとは違う夕食を楽しんだ。



3月23日（土曜日）

11時を目途に診療しながら、撤収作業に入っていく。撤収作業後、全員で階段にならんで写真を撮る。

昼食後、運動会までの間、各自シュノーケルやココナツオイル作り、海洋プラスチックでのアクセサリ作りなどで時間を過ごす。16時ごろからポントグで運動会。V植木が運動会リーダーとなり、V難波、V栗山と協力して、「リレー・綱引き・玉入れ・台風の目・だるまさんが転んだ」の5種目を行う。だるまさんが転んだには多くの子供たちが参加、ぴたっと動きを止める子供もいれば、関係なしに動く子供もいて、收拾がつかない状態が楽しかった。



夕食後の最後のミーティング前に小学生たちが母屋に。私たちに歌やダンスをプレゼントしてくれた。

今回も、うれしいことがあった。夕方の方の患者が減ったところに、カオハガンの島民が治療に来てくれた。いつも多いと遠慮しているけど、検診すると、ほとんどが、クリーニングばかりで、20代の男性の左下の大白歯にシーラントが残っているのを見たら、本当にうれしく思った。

参加メンバーは、むし歯が多くてびっくりしたと感想を言っているが、カルテをよく見るとわかってくることがある。むし歯の多い子供は、ほとんどが島外の患者で、崩壊してボロボロの大人たちもほとんどが島外の患者で、カオハガンの子供たち(低学年はコロナで不参加も原因の一つか？むし歯が多いが…)は、むし歯が少なく、セブなどの学校や職場に行ったカオハガンの高校生や年長者たちは、年2回JDMに診てもらっているから 他の島の子たちよりも、むし歯が少なく、幸せなんだと自覚している子がいることを、カオハガンの島民はきれいな永久歯が多いことを、知っていてほしい。

これからも、カオハガンの子供たちの歯を守って行って欲しい。

後日送られてきたフッ素洗口の写真。指を折って数えている。



リーダー総括

参加の皆さん、お疲れ様でした。

今回、新しい試みも試行しつつ 従来どおりのイベントも行い、

かつ、市長表敬、他島訪問活動など担当された皆さん本当にお疲れ様でした。

そのすべてが 天候にも恵まれ、粛々とトラブルもなく最後の運動会まで催行できホッとしています。

ただ、フリータイムの過ごし方にルールを守れないメンバーがいたこと、島民の生活圏にまで入り込むメンバーがいたことなど、今後の課題ができたようです。

メンバーの皆さんの高揚感、期待感は理解しますが訪れた地域にはその場所のルールがあり、共同生活のルールも存在します。

あらためて周知徹底する責任を感じました。

また、個人的には私が、参加させていただいてきた18年の間の変化を実感しております。

あるもので、あるがままに、

出来る事を出来る時に出来るだけ

望まれた事を望まれた時に望まれただけ

をボランティアの心得としてましたが、隔世の感です。

医療環境も考え方も、時代とともに移り変わり、様々なリスクも考慮していかなければならないことを実感してます。

次の世代のボランティアミッションを育てていってください。

では、またいつか！

上崎

データ

	3/20日	21日	22日	23日	合計
抜歯	108本	75本	69本	13本	265本
CR	25本	33本	64本	1本	123本
シーラント			74本		74本
SC	34人	27人	35人	14人	110人
チェックアップ			2人		2人
研磨		1件			1件
義歯修理	2件	2件			4件
フッ素塗布			57人		57人
人数	109人	85人	204人	20人	418人

島別受診者	
カオハガン	61人
カオハガンスクール	122人
パガンアン	62人
クアミング	43人
カブラン	105人
セブ	1人
無記入	1人
合計	340人

国内活動報告

2023年5月24日（水）

八尾市立竹濑小学校において、5・6年生を対象に「国際理解教育～JDMの活動を通じて」と題して出前授業を行う

9月1日（金）

天満ロータリークラブにおいて、「国際奉仕活動と青少年育成」について卓話を行う

9月6日（水）

大阪東ロータリークラブにおいて、「国際奉仕活動と青少年育成」について卓話を行う

11月8日（水）

八尾市立竹濑小学校にて、出前授業

11月30日（木）

中之島ロータリークラブに於いて、「国際奉仕と青少年育成」と題して卓話を行う

2024年3月8日（金）

高槻ロータリークラブに於いて、「国際奉仕活動と青少年育成」と題して講演を行う



国際理解教育～JDM の活動を通して～

1、はじめに

竹淵小学校校長 爲房 佳祐

竹淵小学校では学校教育目標として、「知・徳・体 調和のとれた子ども」の育成を掲げている。なかでも、「徳」の一面を育むことにおいては “体験学習や人とのつながりを大切にした取り組み” に重点を置き、様々な講師先生のご協力のもと学校教育を進めている。また、“国際理解教育を学校教育に位置づけ、言語のみならず、国際化対応への取り組みの推進” に力を入れたいとも考えている。

沢田先生や栗山先生にご協力いただき、JDMの活動のお話をしていただく『バヌアツ学習』（竹淵小学校ではそうに呼んでいる）も9年目を迎えた。今回は2024年度のバヌアツ学習の様子を報告する。

2、学習について

5・6年生を対象に、1学期と2学期にそれぞれ、バヌアツやフィリピンでのJDMの活動をお話していただいた。



5月24日に行われた第1回の授業では、バヌアツ学習が初めての子どもたちもいるため、沢田先生や栗山先生の紹介からスタートした。事前にバヌアツやフィリピンでの歯科医療奉仕活動の話聞くことは伝えていたので、なかには国の場所を調べてきた子どもたちもいた。JDMの活動の内容や場所についての話を聞いた後は、バヌアツの言語や文化、暮らしている人々の様子などを話していただいた。



バヌアツ学習が初体験の5年生児童からすると、授業前には「歯磨きなんて当たり前のことやん。何でわざわざ教えにいくん?」「歯磨きしてないなんか汚いやん」などの発言があった。バヌアツ・フィリピンの人々の暮らしぶり、公衆衛生の難しさを学び、JDMの活動を知ると、とても大切な活動をしていることに気づくことができた。

授業後の子どもたちの感想には、「わざわざ、自分の時間やお金を使って行くななんてすごい。」「家族もいてるのに、向こうの人のために行くってことはめっちゃ感謝されてると思う。」といったものや、「自分の歯磨きが当たり前ということは、ありがたいことだったんや」などの自身の生活を振り返るものもあった。

11月8日に行われた第2回の授業では、コロナが終息し、6年生の子どもたちはようやく向こうでの活動の様子を知ることができた。スライドを中心に活動報告を聞き、自分たちの折り紙の作品を現地の子どもたちが手に取った様子を見たり、作ってくれた作品をもらったりと、文化交流もすることができた。子どもたちは、学校の他の子どもたちにも見てもらおうと、下足室に飾ることを提案してくれた。



3、学習を終えて（児童の感想）

◎学校にいて、自分が作ったものがわたせてうれしかった。4年生の子が歯を見ている時に一緒に手伝っているからすごかった。こんなに歯ブラシが大事なんだと分かりました。歯が一番大事なんだと思いました。

◎私たちが作った折り紙がバナアツの子たちに届いていてよかったです。バナアツの子が作ってくれた切り絵がとても上手でびっくりしました。4年生とか私より小さい子もボランティアに行ってるって聞いておどろきました。私もいつかボランティア活動とかできる人になりたいです。

◎ボランティアの二人が10日間で変わって明るくなったと聞いてすごいと思いました。ぼくたちが作った折り紙の作品がバナアツに届いて喜んでもらえてうれしかったし、バナアツの人からも竹淵にメッセージをつけて届けてくれてすごくうれしかったです。歯の治療はすごく難しいけどそれを少ない人たちでやっていてすごいと思いました。バナアツから届いた折り紙の作品は色あざやかで細かいところまでしっかりと作られていたので、本当にがんばって作った作品なんだと思いました。

◎歯医者さんはすごいなと思いました。ふつう入れ歯を作るのは時間がかかるのに、行ってすぐ入れ歯を作るのがすごいと思いました。向こうの子たちが作品を作ってくれていて、日本の切り絵とはちょっとちがっていて、はじめて見たものでキレイだなんて思いました。たくさん作ってくれていて、すごいこまかいとこまできれいに作ってくれていたの、すごいなと思いました。私たちが作った折り紙の切り絵とかをプレゼントして、とてもよろこんでくれていて、よかったなと思いました！！

4、おわりに

はじめにも述べたように竹淵小学校では様々な講師先生のご協力のもと、学校教育に取り組んでいる。バナアツ学習では、外国の人々や文化について知ることができた。国際的な奉仕活動の話を聞くことで、現地の人々の暮らしやその背景にも思いを巡らせ、公衆衛生の重要性、奉仕活動の必要性などを改めて実感することができた。

子どもたち自身が奉仕活動を体験することができなくとも、JDMの活動の様子や同じ小学生の子どもたちの活躍を聞くことで、「自分も何かできるのではないか」「将来やってみたい」などという気持ちを抱くことができた。今後も竹淵小学校では、子どもたちの豊かな心を育てる一つの取り組みとして、このようなバナアツ学習を続けていきたいと考えている。

海外活動参加者感想文

佐々木 正志（歯科技工士）



バヌアツとはどんなところだろう、フィリピンと比べてどんな感動が待っているんだろう。

そんな気持ちから今回の活動に参加させて頂くことになりました。

ペンテコスト島に着くまでに幾つかのトラブル、島に着く直前で全ての荷物が届かないなど困難な状況に不安が募りましたが

パンギ村に向かう道中ですれ違う島の人達や子供達のあいさつや笑顔に期待が高まりました。

小学校の検診に行き子供達と折り紙、切り絵、サッカーなど文化交流しましたが暖かく迎えてもらったことや、帰り際自分達の乗っている車をずっと追いかけてくる子供達

嬉しくて忘れられません。

入れ歯を入れた患者さんの笑顔忘れられません。

やりたかった入れ歯製作も出来ましたしその中で自分に課題も見つかりました。

また次回の活動に向けて成長したいと思います。

活動を支えるJDMの方々に感謝申し上げます。

関根 龍勢（ボランティア）

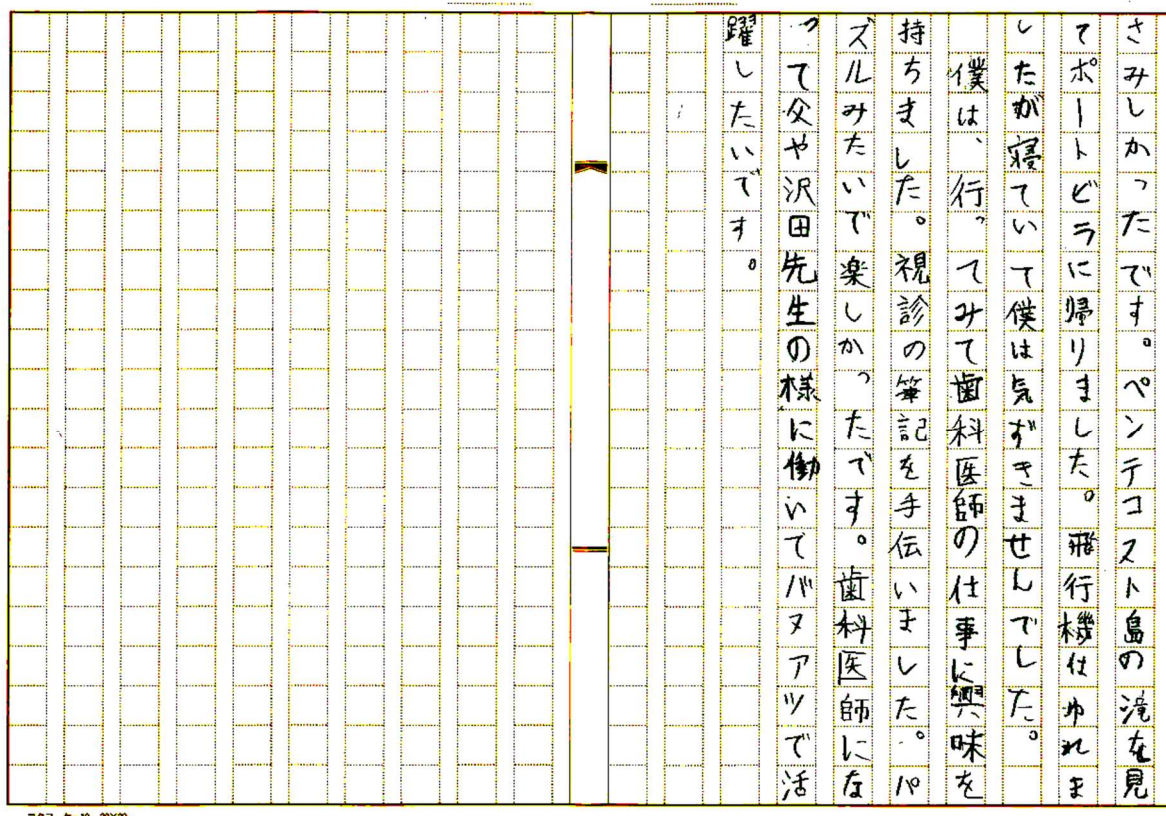


バナアツでのボランティ
 ぼくは、前からお父さんがバナアツに行
 た後は、疲れているけれど顔は、笑顔だっ
 ので、楽しそうだな、と思っていました。お
 姉さんか行く予定だ、たのに「行きたくな
 い。」と言、たので、ぼくが行くことになりま
 した。
 そしてペンテコスト島に着いた時、雨と風
 で着陸出来ずに2回目でおられた時にほと
 しました。
 不安になりました。全ての荷物が来て、なくて少し
 台に乗ってパギ村に行きました。僕のお父
 さんは歯科医師です。コロナで三年間治療に
 行けなかつたのに村の人は、道具を大切に取
 っておいてくれました。歯科技工士の佐々木
 先生と治療器具を洗って準備をしました。昼
 過ぎにチャーター機で荷物が届きました。チ
 ーター機のお金ジャパンデンタルミッショ
 ンの会員の人達やロータリークラブのメンバ

コクヨ ケー10 20X20

ーの寄付のお金だそうです。不安がスツキリ
 しました。そしてその日の治療ができました。
 次の日はラングスクス小学校に行きまし
 た。そこでは、文房具の寄付や、歯科検診を
 しました。僕は、折り紙や切り絵を教えまし
 た。生徒と寄付したサッカーボールで遊びま
 した。楽しかったです僕は、まだ遊びたいと
 思いました。パギ村で治療があるので帰
 りました。少し寂しかったです。パギ村で
 の治療は真暗になるまでやっていてゆうか
 んだしか、こいと思いました。
 ペンテコスト島の三日目、僕は活動を少し
 サボって友達と鬼ごっこやキャッチボールを
 しました。先生や歯科衛生士の菊島さんや小
 西さんは一生けん命働いていました。技工士
 の佐々木さんは、いれ歯を作っていました。
 遊んでいてすいませんと思ったけれどすごく
 楽しかったです。
 最後の日、日本に帰るので、ボランティ
 の一輝と一緒に教会を掃除しました。僕は、

コクヨ ケー10 20X20



杉本 潮美（歯科衛生士）

私が今回参加しようと思ったのは歯科衛生士として海外で役に立てる事はないかと考えたのがきっかけでした。

海外で歯科衛生士として働いてみたい気持ちはあるが、英語は喋れないし、長期間は難しそう、、、そんな時に JDM の活動を拝見し、私も参加したい！と思いました。

最初は1人で参加する予定でしたが、歯科アシスタントをしてる友人に行く事を話すと、行ってみたいとの事だったので一緒に参加する事になり心強かったです。

行くまでは周囲から大丈夫なの？と心配もされ少し不安にもなりました。様々なことを想像してたので想像してたよりもすごしかったです。

初日はカオハガン島に着いたのが遅く、就寝時刻が夜中の2:00 だったのですが、寝ようと思った時に“コケッココー”と鳴いてとてもビックリしました。

朝方に鳴くならまだ分かりますが夜中の2時に鳴くとは思っていませんでした。

ボランティア初日は準備をし、いざ診療!!



皆さんと診療するのがすごく楽しく、プロフェッショナルの仲間入り出来たことがとても嬉しかったです。診療後の飲み会では普段出会うことない人達と出会い、色んなことをお喋りし自分の価値観や視野を広げる事が出来ました。

帰国後はオンライン英会話で日々勉強中です。

初参加で緊張しっぱなしでしたが、メンバーさんがリピーターさんばかりで本当に心強かったです!!

たくさん喋りかけてくださって、和ませてくれてすごく楽しい5日間になりました。この出会い、縁を大事にしたいです。

最後に、、、

ボランティアに大事な『かきくけこ』を日常に取り入れていきます!

みなさん本当にありがとうございました!

筒井 優佳（歯科助手）

11月1日～5日 カオハガン島 活動感想

私は現在、歯科医で受付助手として働いております。友人から海外ボランティアに参加するという話を聞きき、そういった活動自体初めて知ったので驚きと、参加してみたいという気持ちがすぐに湧きました。

初めての海外でのボランティア活動ということもあり事前の会議から出発して帰国するまでずっと緊張しておりました。

飛行機と車そして船と乗り継ぎ、カオハガン島へ到着しました。船からカオハガン島までは潮の満ち引きの関係で水につかって上陸する場合もあると話にきいていましたが、幸いにも行きも帰りも水に浸かることもなく上陸することができました。初日到着した時間が夜ということもあり暗く足元をみてまず驚いたのが、ヤドカリがたくさんいた事に驚きました。踏んでしまわないよう気をつけて歩くほどのヤドカリを避けつつ今回お世話になる母屋へ向かいました。

私が今回寝泊まりしたのはロフト付きのロッジで蚊帳付きのベッドが下2つロフトの2階に2つ、合計4名でのお部屋でした。

初めは正直気候の暑さに眠れないのではと思いましたが、日によって風が少し通る日もあり、その日の疲れもあったからか思ったよりも眠れました。

私は食事に関しては好き嫌いがあまりありませんが、初日から最終日まで毎食本当に美味しかったです。

カオハガン島はやはりお聞きしていた以上にとても暑かったです。ただ、島内は大きな木がたくさんあるので日陰となり、暑さがいくらかましに感じました。

活動初日、島民はお墓参りがあるそうでいきなりすごい人が殺到するいうことはなかったですが、見るもの全てが初めての私は驚きと焦りと緊張でいっぱいでした。現在働いている院長のアシスト以外ついたことないので、道具や器具も知っていることもあれば分からないことも多く自身の未熟さをとても痛感しましたが、初日はドクターのアシストをさせて頂きとても良い経験となりました。日本から持っていける器具に限りもあるし、カオハ



ガン島での設備にも限りがあるなかでドクターや衛生士さんスタッフの皆さんが迅速に対応されてるのをみて素晴らしい、私もなにかお役にたてればと常に思い活動していました。

今回アシストをさせて頂き、気づいた事は沢山あるのですが、まず皆さんどんな状況でも患者さんの事を思って治療されてましたし、デンチャー修理では割れているデンチャーをなんとか使えるように迅速に修理されていました。修理の為、義歯を外して口元を気にされて恥ずかしいと話している患者さんを見た時、心のなかで年齢の若さに驚いてしまったのですが、前歯に義歯を入れている方の治療をした時もその患者さんの見た目の年齢の若さに吃驚してしまいました。日本でも義歯をされるにしてお若い方も稀にいますが、高齢の方イコール義歯と定義づけていたわけではないのですがそういった方が多かったので個人的に衝撃的でした。歯を残すにしてもしっかりと治療ができない以上抜くしかないという選択肢もあるということがあるんだと実感しました。

気づいたら、診療所の入り口が患者さんで溢れているなんて日もありました。患者さんの口内チェック（チェックアップ）のアシストも数回させていただけたのでとても嬉しかったです。私は英語も話せないですし、ビサヤ語も勉強不足でしたのでどうしても積極的にいろいろと動くことはできなかったのですが、少しでもアシストにつかせてただけた事が嬉しくとても良い経験となりました。

小学校でのドネーションではその日学校が休校だったのですが、子どもたちが集まってプレゼントを渡すことができました。タオル、歯ブラシ、画用紙、クレヨンたくさんのプレゼントを喜んで受け取る子どもたちの姿がとても印象的でした。このような活動を海外でされているだけでも素晴らしいのに企業と協賛されているのもいかに JDM の活動が素晴らしく代表の沢田先生がすごい方なんだなと思いました。

そして島民たちがみんなとても優しく、にこやかな表情をされていたのもすごく印象的でした。最初の頃ですが、診療所まで向かっている時に少し道を間違えてしまったのか迷ってウロウロしているとすぐに島民の方が指を指して診療所あっちだよ。と教えてくれました。実際は現地の言葉だったのですがすぐに教えてくれるのだと分かり、その後も診療所に迷うことなく行くことができました。島内を歩いていても日本語でこんにちは、英語でハロー、ビサヤ語でマアヨンブンタグ等子どもから大人までたくさんの方が声をかけてくれました。特に子どもは活動用の名札をみてすぐに下の名前と呼んでくれたのが嬉しかったです。

最終日には子どもたちと運動会を行いました。リーダーの子ども達のまとめ方や指示の仕方がすごくてリレーや綱引きなど一緒になって楽しむことができました。他にも玉入れ、ビーチフラッグ、騎馬戦等も行いました。最初は英語もビサヤ語も話せずやきもきしていましたが、なんとなくのジェスチャー等でも興味を思ってくれてコミュニケーションをとることができとても楽しかったです。騎馬戦では、すごく子どもたちが興味を示してチャレンジしてくれるのですが、あまりに小さい子達はなかなか立ち上がることができず、私も子どもたちの怪我が心配でうまくサポートできなかったことが少し心残りでした。

今回初めての場所、初めての事ばかりですごく刺激的な5日間でした。

まだまだ書ききれない出来事や思ったこと、感じたことは沢山あります。感想文だけでなく私自身の口からも第三者に聞いてもらい、その時新たに気づくこともあるかと思うので、今回 JDM にて参加させて頂いた5日間はかけがえのない日となりました。

今回このような活動に参加するきっかけとなった友人には感謝してもしきれません。そして5日間お世話になりました、カオハガン島での現地の方々、一緒に活動させて頂きました、ドクター、衛生士さん、ボランティアスタッフの皆様。本当に有難うございました。

活動最終日に皆さんのお話は忘れられないのですが、やはり特に沢田先生の「かきくけこ」は大切に覚えておきたいと思います。

か（感謝）き（気配り）く（工夫）け（健康）こ（行動力）今後ボランティア活動をする時はこの言葉を思い出したいと思います。

石井 聡美（歯科助手）

カオハガンでの活動を振り返って

まず今回この活動に参加したきっかけは、昔から海外で医療ボランティアをするというのが一つの夢だったからです。また、一年前からオーストラリアで歯科助手のコースを学び、現地の歯科医院で働いている際、歯科医から東南アジアで歯科ボランティアをしたという話を聞き、歯科助手としてもボランティア活動ができる所があるのかを調べ始め、Japan dental mission の活動を知りました。セブ島は昔、短期留学で住んでいたことがあり、その際にカオハガン島のことも知っており、いつか行ってみたいと思っていた島でした。歯科の経験は浅いものの、英語が活かせる場でボランティアができると思い、参加を決めました。

現地ではポータブルユニットの使用や限られた資源環境での活動であり、普段設備の整った歯科医院の中でする仕事との違いを知りました。器具の洗浄や部屋、物品の準備も普段通りの決められた手順に従うだけではなく、感染リスクを抑え清潔に保つこと



が難しい環境で臨機応変に動き、工夫していく必要性を感じました。例えば正規の針捨てボックスがない中で、グローブの空き箱を活用することや、更なる安全性を確保する為メスの刃先をガムテープで包んでから箱に入れるなど、ボランティア経験の多い方から学ぶことも多くありました。環境も設備も何も用意されていない所から、一から自分達で作っていくこと、それには経験値と発想力が必要だと感じました。また普段通りの手順でやるだけでは治療に追いつくことができない環境の中で、その中でできる限りのことをするよう普段との折り合いをつけることも必要と感じました。

現地での役割について、歯科医師や歯科衛生士というポジションよりボランティアは特定の仕事が決まっていな分、その時々において自分が何をするか、何をしたら他の人が動きやすいのか、自主的に見つけ行動することを心掛けました。治療やクリーニングなど処置毎に部屋が分かれている分、どこに今人手が欲しいのか、自分ができることとして通訳や器具の洗浄、診療補助どれが今最適なのか優先的にやるべきことなのかを考え動くようにしましたが、それよりも他の方は歯科の経験やボランティアの経験も多く、視野も広く、皆さんに助けられることがとても多かったです。参加者それぞれが気付き、助け合い行動し、それで診療が回っていく雰囲気がとてもすごいなあと思いました。また、ちゃんと診療を進めていくのと同時に、皆その中で笑いを見つけ楽しみながらやっている姿が印象的で好きでした。

島での生活は水や電気の制限がありましたが、それが苦にならないような島の雰囲気が好きでした。自然の隣に生活がある、小さな島ならではの暮らしを楽しめました。特に島の子供たちはとても人懐こく、すぐに私達の名前を憶えてくれ、いつでも笑顔で、とても癒されました。運動会も子供たちの笑顔を多く見ることができ、私達も楽しみ、とてもいいイベントだったと思います。

私は今回初参加でしたが、JDM としての活動は長く続いており、検診でその成果が出ているのが分かったと聞いた時は私もとても嬉しく感じました。ボランティアの意義を考える時がありますが、この経験を通し、助けに行っているつもりでも私がその場で学び得たりするものがだいぶ大きいと感じました。また、沢田先生のボランティアの“かきくけこ”（感謝・気配り・工夫・健康・行動力）が正にそれを表しているなど実感しました。またリピーターの方も多くいると知り、個人でボランティアをしたいと思う人達がいること、それを実現しこの島に継続して介入できる団体があること、両者ともにとても大事なことだと感じました。またそれぞれがその中の一人としてできる時に参加することにより、また楽しみを交えながらやることにより、活動の意志が繋がれていき、継続的な島への助けになると感じました。今回活動に参加できたことをとても感謝しております。

近藤 恵（歯科衛生士）

JDMに応募する前、どんな事をするのか自分に出来る事はあるのか、様々な事が心配でなかなか決心がつかないでいました。

ですが実際参加してみて、応募前に悩んでいた事は全てすっ飛ばくらい貴重な時間を過ごす事が出来たと思います。あの時に勇気を出して良かったです。

島民の口腔環境面では、日本とは全く異なる環境で残念に思う所もありました。でもまだまだやれる事はあると思いますし、何より一緒に参加したメンバー達の「より良くしていきたい」という熱心な気持ちに胸打たれました。

私は初参加で、ただ目の前の口腔内に驚くばかりでしたが次回以降はもっと「どう改善していくか」に意識を向けていきたいです。

島での生活については、島民みんな笑顔で温かく、これもまた日本とは全然異なりました。

子供達は元気すぎるくらい元気で、童心に返って楽しい時間を過ごす事ができるのも JDM の良いところだなと感じました。

ここで得た経験は私の人生で大切な一部になりました。また日々精進して戻って来たらいいと思います。



上田 勝嗣（ボランティア） 大阪西南ロータリークラブ



カオハガン島の海外活動に参加して

2024年4月13日にロータリーの大きなイベントがあり、メイン講師がバヌアツで42年間、カオハガン島で28年間デンタル奉仕活動をされてる沢田先生にスポットライトを当てる企画を考えました。

私も当日紹介する時に少しでも現地での事を知りたくて、今回参加させて頂きました。

壮行会の時に初めて顔合わせをさせて頂いたのですが、私から見るとあまり歓迎されていないと薄々感じました。

先生、歯科衛生士の皆様は待っている患者の治療に行くわけですから、私とのギャップは当たり前で、私も空気を読めず失礼の数々だったと思います。

そして、当日関西空港8時集合だったのですが、不安で全然寝れませんでした、そんな経験は私にとって初めてのことでした。

そしてマニラ空港からセブ島につき、港は真っ暗闇の中で懐中電灯を片手に船に乗り、カオハガン島についたらその日は疲れてぐっすり眠れました。

翌日早々、診療スタートです。ベテラン先生、歯科衛生士の方々がテキパキと動く中、私は何をすればいいのかわからず、ぼーっとしていると、ステンレスのお皿にサランラップをまいて治療の基本セットを用意してくださいと言われて、仕事を与えて頂きました。

その後、治療後の器具の洗浄もビックリしましたが何とか出来たような気が致します。

ロータリーの青少年奉仕を考えると、参加された3人の学生さんたちの変化にも立ち会わせて頂きました。

JDMのHPを見て参加された高校2年生の女性は、1年間頑張って歯科医師になると宣言され嬉しいなと思いました。

高校3年生の男性は活動中に「国立歯科大学合格」の一報が飛び込んできて、歯科医師になってまたここに帰ってくるという話もありました。

大学2回生の男性は経営学部だから医者にはなれないが、社会人になってこのような奉仕活動に関わりたいたいという話をされました。これはまさに、今我々が青少年育成プログラムで将来の人を育てるという理念と一致いたします。

しかし、我々のRC活動は6日間で劇的に変わるという事は考えられません。

この海外活動はまさに将来の人づくりに貢献しています。

私も早く孫たちをここに連れてきて何か気づきのヒントを得られるのでは？と将来の夢も広がると思いました。

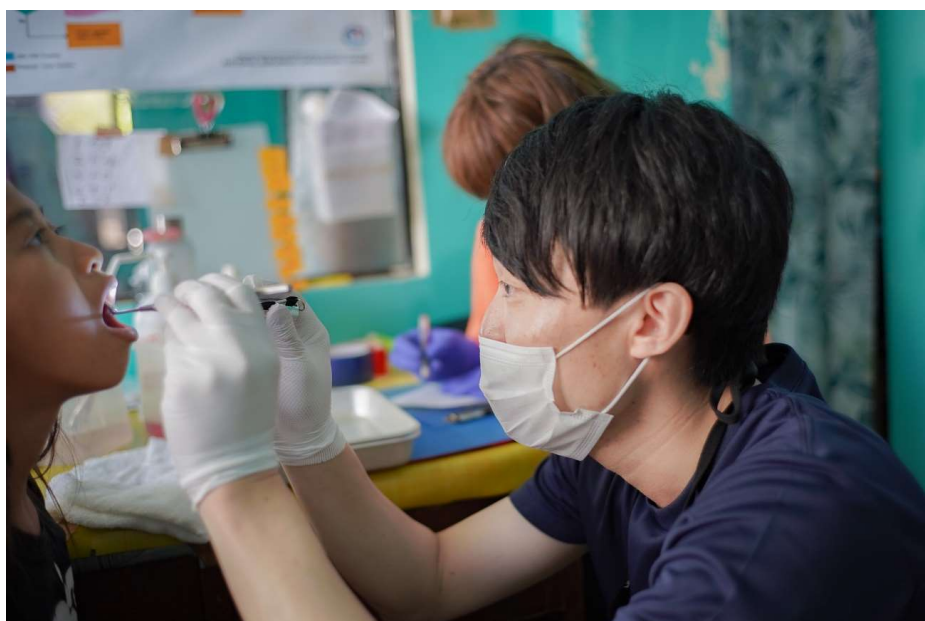
ベテラン医師の方々、歯科衛生士の方々が手際よく動かれ、島民の歯を守るために治療方針も素晴らしく最高の仕事をされてると思いました。

上崎チームリーダーのリーダーシップのもと、チームのまとまりがあり、最高のドラマを見ているようでした。

最後に沢田先生のこれまでやってこられたバヌアツ、カオハガン島での歯の支援活動の実績で市長、村長からも絶大なる信頼を寄せられ、今後日本とフィリピンの為に更なる活躍されると思います。

中津川 昂平（歯科医師）

僕は10年前に歯科医師になり、学問として好きだった矯正歯科の道に入った。大学院での研究や専門医資格の取得、英語論文投稿のため目の前の目標達成するためにただがむしゃらに努力していたら既に7年の月日が流れていた。当初の目標が一つずつ達成していく頃、次にやりたいことを探してるなかで見つけたのがJDMの海外ボランティアだった。歯科医師になった時から週1.2回続けて来た一般歯科治療の技術を使って、何か人のためにできることはないかと思ったのがきっかけだ。それでも大学にいる間は多忙でなかなか長期の休みが取れずに参加することができなかった。去年4月から職場を変えて金銭的、時間的余裕が増えて、やっと今回活動に参加できるよう調整できた。



僕にとって海外に行くのは約10年ぶりだった。初めていくフィリピン、そしてカオハガン島は本当に新鮮で衝撃の連続だった。セブ空港から車で港に向かう。港から細い木の板の上を歩いて船に乗り込みカオハガン島へ向かった。強い風を浴びながらこれから訪れる未来にワクワクしていたことを思い出す。夜の上陸時はたくさんの犬の声に圧倒されながらカオハガンハウスに向かう。少し落ち着いた頃に気づいた島の上空に見える星空は、明日からの期待を後押しするようだった。

初日の朝は犬の鳴き声、鳥の囀り、ニワトリの鳴き声、波の音で目覚める。まだ6時、朝食前に砂浜を散歩して海の美しさに感動する。穏やかな波と水面に反射する空のリフレクションが美しかった。美味しい朝食を食べてから初めて島民の治療に参加する。治療は抜歯かCR修復かスケーリングの3択。通院できないため、抜随や歯冠補綴の選択肢はない。日本では保存できるような永久歯も、ここでは抜歯となった。初日は抜歯専任で処置していった。難

抜歯ばかりで、時には諸先輩方に手伝ってもらいながら処置していった。2日目はCRばかりこなしていく。CRは上顎前歯が好発部位だった。防湿や視界の悪さが治療を難しくしたが、衛生士さんと息を合わせて沢山の充填を行った。3,4日も同じように診療をこなした。環境も設備も違えば、治療の選択肢が変わるし、患者の望む治療も変わることを実感した。今僕らがどれだけ高度な医療を受け、恵まれた保健指導のもとで暮らしていたのかを改めて感じる。

5泊6日を通して、JDMの皆さんと過ごした時間はとても充実した時間だった。毎日3食をともにして色々な話をした。お酒を飲んだり、語ったり、診療したり、散歩したり、子供と遊んだり、シュノーケルしたり。ネットや電気、水の制限がある環境なのにこんなに充実しているのは、メンバーや島民に共通して感じる人の温かみを沢山感じたからなんだろうと思う。それがこのカオハガン島が“何もなくて豊かな島”と言われる所以なのだろう。誰もがこの島から帰りたくないと思う、そしてまた来たいと思うような場所。僕もまたこの場所で、誰かの役に立ちたいと思った。不覚にも泣いた3月の終わり、気づけばいつもの日常に戻っていた。一言でいうと島での6日間は100年前の南国の離島に異世界転生したかのような感覚だった。僕にとってはまるで夢のような時間をともに過ごしたJDMの皆さま、この場をお借りして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。また一緒に活動できる日を楽しみにしています。

植木 亮裕（ボランティア）



初めてのボランティア活動をJDMの皆さんとカオハガン島でできたことは私にとって一生の思い出となりました。私はボランティアとして参加したので歯科関係のことは全くと言っていいほど知識がありませんでしたが、メンバーの皆さんに1つ1つ教えて頂きながら少しずつ出来ることが増えていき、楽しみながら活動することが出来ました。ボランティアとはとても大変で疲れるものであるという先入観を持っていたのですが全く異なり、とても楽しく活動することが出来ました。また、日本とは全く異なる文化、生活を経験出来ました。特に子供たちの底抜けの明るさや人懐っこさには本当に驚かされました。彼らは経済的には日本に比べても圧倒的に不遇で

あるはずなのに皆が本当に幸せそうでした。メディア等では可哀想な子供たちだというようなレッテルを貼りがちですが、実際に現地に赴くと必ずしもそうではないことが分かりました。経済的側面で圧倒的に裕福な日本の子供達が、カオハガン島の子供達ほど良い笑顔が出来るとは思いません。何をもって貧しいとするのか経済的に裕福であることが絶対の幸せであるのかを深く考えさせられました。一方で、彼らが経済的に不安定であることは事実であり社会全体が守っていくべきであるとも感じました。彼らの笑顔が健康面等で脅かされてはならないと強く思いました。

話は変わりますが、現地の人々と英語で何となくではありますが会話出来たことが非常に嬉しかったです。一方で細部までは聞き取れなかったり、上手く自分の伝えたいことが伝えきれない場面も多々あったりでこれからも英語を勉強して、更に現地の人々と密にコミュニケーションを取ることが出来るようにしていきたいと思いました。

本当に素晴らしい体験をすることが出来ました。参加を迷っている方には是非参加して欲しいです。私もまた参加したいと思います。ありがとうございました。

高橋 ひとみ（歯科衛生士）

2024.3.19-24 JDM カオハガン島歯科ボランティア参加 感想

生まれて初めての歯科ボランティアでしたが、とても有意義な6日間でした。

今まで歯科衛生士として日本で診療に携わってきましたが、カオハガン島でのボランティア活動を経て、価値観が変わるような感覚になり帰国した今でもカオハガン島で過ごした6日間のことを反芻するように思い出します。

JDM の歯科ボランティアに参加したきっかけは現在勤務している歯科通販会社でコロナ前に出ていた途上国への歯科物資支援の話でした。結論から言えば、その話は立ち消えてしまい、途上国へ視察に行った上司たちも今は退職され、会社は別のベクトルへ向かっています。ただ私の中では途上国をはじめ他国の歯科業界の実態や途上国の歯科ボランティアではどのような活動をしているのかという興味はずっと残り続けました。

コロナに入る前からたまたま JDM の活動を知り、地域に根ざした活動をされている歴史ある団体だということを強く感じ、歯科ボランティアで応募するなら JDM にしようと心に決めていました。

コロナが明け、やっと JDM のボランティアの募集を見つけギリギリでしたが応募し、入れて頂くことができました。

実際に JDM の活動に触れて、野戦病院さながらの現場に驚きつつ、日本での診療ではカウンセリングから入り、治療方針を決め、期間などを相談するなど、比較的長期スパンをみて治療を進めていきますが、カオハガン島での診療では「今痛い」「どうにかしてほしい」など今まさに感じている島民の歯に対する気持ちを目の当たりにしました。

歯科チェックをさせて頂いた際に上顎 2-2 の隣接カリエスについて、CR を希望していた患者さんがいましたが、窩洞が深く露髄する可能性が考えられたため、EXT の可能性もあると通訳の方に伝えた際、ショックのあまり飛び出していったことが忘れられません。

まだ若く、恐らく 10 代後半だったと思いますが、日本では救える歯を、歯科ボランティアでは活動期間が決められていることもあり、カリエスの処置選択が CR か EXT しかできないこと、とても悔しく感じました。

最終日のミーティングでも一緒に参加された難波先生をはじめ、先生方が処置に対する気持ちをお話してくださいましたが、私も治療の仕組みを工夫して、もっと出来ることを増やしていけたら良いと感じました。

具体的には参加される先生方や JDM の方針、出来ること、物資などを考慮し、熟考する必要がありますが、もしかしたらより良い治療へと繋げていけるのかもしれないと私は考えます。

また、小学校でのフッ素洗口指導など、嶋村衛生士が一緒に行うスタッフと一生懸命練習されていたのを見て、嶋村衛生士をはじめ、スタッフそれぞれの島民への熱い気持ちに私も胸が打たれました。



その思いに応えるように帰国後、カオハガンハウスのヨシエさんが送ってくださった子供たちがフッ素洗口を継続している様子の写真を見て、また胸が熱くなりました。

次回参加する際はぜひ私も小学校でのフッ素洗口指導に参加したいと思います。

また、最終日のミーティングでも提案させて頂いた、キシリトールガム等の導入なども JDM の活動の一つで出来たら、ドネーションなどの支援も含め行っていきたいと考えています。

今回の活動ではオートクレーブの導入など、今までとは違う取り組みを行ったと伺いました。

消毒滅菌については私も好きな分野なので、診療時の消毒滅菌カリキュラムやマニュアルを作成し、初めての参加者が多い活動回でもスムーズな運営が出来る仕組みづくりなどの提案など、JDM の活動に今後ともご協力させて頂きたいと考えています。

仲良くして頂いたカオハガン島の子供たちをはじめ、島民の皆様がきれいな自分の白い歯でいつまでも過ごせるようにこの機会を良いきっかけとし、これからも JDM の活動に参加させて頂けたらと強く思いました。

とても気持ちの良い JDM の皆様との出会いもあり、この出会いも大切にしていきたいと思っています。

また皆様と活動できますことを心より楽しみにしています。

ありがとうございました！

土井 一樹（ボランティア）

感想文

僕は、高校2年生になってから本格的に学校の勉強についていけなくなり、

それが元で、色んな悩み事が増え、耐えきれなくなり、ついに学校も定期的に

サボる様になってしまいました。精神状態ももちろん良くなく、

これを見かねた母が僕をまず、脳の精神検査に連れて行って異常がないのを

確認してから、僕を知り合いの沢田先生にバヌアツに連れて行くように進めたのです。

僕は、最初は大した意思も望みも無く、最初はついて行くだけでした。

日本から離れて今まで行ったことのない国に行って、どんどん新鮮な体験をするうちに徐々に本来の自分に戻って行くのを感じました。母親もそうだけど、この旅に連れて行ってくれたみんなの心配と熱意に自分は動かされた気がします。

僕が行ったバヌアツのペンテコスト島は一般的な観光客が滅多にいけない場所でした。あれはボランティアだからいけたのです。あそこに行つて得たものの中でなにが一番大きいかというと、自分の気持ちより正確に読んで、その通りにする行動力がついたことだと思います。何故かわからないけど自信もついたり、人に話す時も声を張りやすくなりました。

JDM に参加する度に自分自身の人間力を見直し、そして高めるきっかけになります。様々なハプニングの中でもメンバー全員が臨機応変に対応し、今回特に限られた短い時間と人数の中で楽しく有意義にミッションを遂行することができました。JDM にとっては4年ぶり、私にとっては初めてのヴァヌアツ共和国での活動ということで緊張と不安、期待と楽しみな気持ちの半々でした。しかし参加してみると圧倒的に後者が前者を上回る結果となりました。参加した半分は以前フィリピンで一緒に活動を共にしたメンバー、もう半分は私と同じ出身地の親子と高校生、自然と打ち解け安心して活動することができました。



学校訪問ではキラキラした笑顔の純粋で素直な子どもたち、セレモニーでの国歌 Yumi (意味: you and me.) 斉唱では子どもたちの歌声に心を打たれました。学校検診や診療所での島民の口腔内の印象は、衝撃を受けるほど悪いというものではありませんでした。だからこそ、この歯を抜歯しなければいけないのか

と複雑な感情に自問自答を繰り返しつつも、しかしここで必要なのは患者さんである彼らにとって何が一番良い治療なのかであり、私たちのエゴを押し付けることではない。時に優しさは冷たさになり、冷たさは優しさにもなるとはまさにこのことなのではないかと深く考えさせられました。

現在、ヴァヌアツ共和国では口腔衛生教育に力を入れているとのことでした。そのため学校訪問では子どもたちだけでなく、教育者や可能であれば保護者に対しても保健指導をしていく必要があります。また診療所においては患者さんに上記はもちろん、クリーニングそのものとその重要性をしっかりと認識していただく必要があります。これらを継続することで将来、「抜いて」や「治療して」と言う声よりも「クリーニングして」と言う声が多く聞こえてくることを期待します。今回はマンパワーや日数の関係で、そこまでに至らなかったため、これらは次回以降の課題となるのではないかと考えました。

今回も当たり前が当たり前ではないことを改めて実感したと共に、今後も日々感謝して生きていきたいと強く思いました。また、私自身各国を飛び回り様々な経験をしているために現在歯科衛生士として働いていない現状ではありますが、歯科衛生士になって本当に良かったと心から思いました。今回の活動を通してまた、生きていく上でとても大切な " なにか " 言葉ひとつでは表せないことを多く得ることができました。

ヴァヌアツ共和国は世界一幸せな国になったことがある国の一つです。現地の方々はその理由をたくさんの笑顔と挨拶、人々が友好的だからだと言っていました。実際にその通りで現地で短い期間生活しただけでも頻繁に目にする光景また体験する、誰にでも笑顔で挨拶、困っている人がいれば見返りなど求めず当たり前助ける、それは観光客に対しても現地人に対しても変わらず。確かに文化や習慣の違いは間違いなくあるものの、だからこそそこから学ぶことも多くあると感じました。

最後になりましたが、出発前の荷物を準備してくださったメンバー、今回共に活動したメンバー、協力してくださった現地の方々本当にありがとうございました。この素晴らしい出逢いを大切に、また地球上のどこかでお会いしましょう！ありがとうございました！

向井 まちこ（歯科衛生士）



10代で抜歯、大きいカリエス！衛生士として何とかしてあげたいと思いました。

今後もまた是非、活動に参加したいと思います。よろしくお願い致します。

カオハガン活動報告！

2018年にペンテコストの活動に参加させて頂き、今回は2度目の参加！カオハガンは初めての参加となりました。今回もたくさんの学びと反省点、改善点、そして課題ができました。

歯科診療や活動を行い無事、日本に帰って来ました。たくさんのサポートありがとうございます。メンバーの方々に感謝です。本当にありがとうございました。

今回は、オートクレーブの導入と新しい取り組みがありました。今後の治療に活かしていけたらと思います。今後の課題として、治療だけでなく予防と教育に入れてもっと、JDMの活動の引き出しを増やしていけたらと思います。

島の方々の笑顔やお礼の言葉を受け、虫歯や歯周病、治療や予防のお手伝いをする事で貢献できたらと思います。

カオハガンボランティアに参加して



まずカオハガンのボランティアに参加してみて感じたのは現地の人の優しさでした。現地の方はとてもフレンドリーで歯科ボランティアを行うときの会話の場面に片言の英語でも十分にコミュニケーションをとりながら接せました。私はボランティアでは受付のような作業をしました。診療にくる方々がどのような治療を受けたいか、口腔の状態などを歯科医師や衛生士の方が確認するのを補佐する作業をしました。その時に相手がどのような問題を抱えていて、それを伝えたいのかの読み取りを作業の傍ら学びました。外国語に限らず相手を感じていることを理解する能力の習得に励みたいと思いました。

また、水のありがたさを感じました。カオハガン島はとても小さく水資源がありません。そのためシャワーなどの水の節約を心がけていました。その節約の精神は日本に帰っても無意識で行っていました。

ただ、現地の方々に泊めてもらっていることを忘れてはいけません。私は止めさせてもらっていることを忘れていて、迷惑をかけてしまいました。

今回のボランティア活動は学べることの多い経験でした。

医療に対する考え方が変わり、カオハガンのような医療現場がこの世界に多く残っていること知ってはいたが実感がわいていなかったのですがボランティア活動に参加して身に沁みました。人生で初めてのボランティア活動でしたが、周りの方、現地の方に助けられ楽しい6日間でした。

2024年度 海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事（活動）は、医療活動に限らず多種多様ですので、どなた様でもご参加可能です。

皆様のご参加をお待ちしております。

参加申し込みは当会ウェブサイトからお願いします。

<http://www.japandentalmission.org>

バヌアツ共和国

今年度の活動はありません。

フィリピン共和国

チーム名	日 程	締切日
11月カオハガン島	2024年11月2日～6日	2024年10月8日
3月カオハガン島	2025年3月18日～23日	2025年1月27日

*状況により予定は変更します。

参加費用

バヌアツ共和国

フィリピン共和国

科 目	金 額	金 額
航空運賃*1	約25万円	約12万円
滞在費	現地宿泊費、食費等	
海外旅行傷害保険代	希望者のみ各自負担	
ユニフォーム代*2	3千円	3千円
合 計	約30万円	約14万円

*1：航空運賃は、時期により変動します

*2：持っていない方のみ

ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿 革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてバヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“バヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、バヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらい、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	バヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	バヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
	現在に至る

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

●バヌアツ共和国における歯科医療活動

ペンテコスト島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。

また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。

島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

●絵画などの交換

バヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とバヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

その他、日本の伝統的文化を基に交流を行っています。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4. 青少年育成

ボランティア活動に参加した若い学生達はプロのメンバーと共に活動し、助け合い、話し合ったりするうちに積極性や活力が付き、彼らの自己成長を養う為のお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・ (株)アド・ダイセン
- ・ アベ・ラベリング(株)
- ・ オーエム歯材(株)
- ・ 大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・ 大阪市立開平小学校
- ・ 大阪市立昭和中学校
- ・ 大阪市立高津小学校
- ・ 大阪市立玉造小学校
- ・ 大阪市立中央小学校
- ・ 大阪市立中大江小学校
- ・ 大阪市立南大江小学校
- ・ 大阪市立南小学校
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ 大阪府歯科医師会
- ・ 尾崎歯材(株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ 清原(株)
- ・ 共栄社化学(株)
- ・ グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- ・ コクヨ S&T(株)
- ・ サクラクレパス(株)
- ・ 沢井製薬(株)
- ・ 笹野電線(株)
- ・ 沢田歯科
- ・ サンスター(株)
- ・ (株)システムつう
- ・ (株)ジャックス
- ・ シンク(株)
- ・ 甚田会計事務所
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ スモカ歯磨(株)
- ・ セイコーエプソン(株)労働組合
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- ・ 大日本除虫菊(株)
- ・ 大平工業(株)
- ・ 太洋旅行(株)
- ・ 嶽北歯科
- ・ タナベスポーツ(株)
- ・ 株式会社ツサカ
- ・ つるや(株)
- ・ トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- ・ 南総工業(株)
- ・ 西澤歯科医院
- ・ クリエイト(株)
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 白水貿易(株)
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (有)ハマダデンタルサプライ
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ 不二印刷(株)
- ・ ヘリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
- ・ 蛍印刷(株)
- ・ モリタ(株)
- ・ 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 八千代オート(株)
- ・ ユー・エフ・オー(株)
- ・ 陽春園(株)
- ・ 吉竹歯科医院
- ・ DENTRADE
- ・ Greenpath Corporation
- ・ JICAバヌアツ支所
- ・ NPOセンター
- ・ TKX(株)
- ・ UHA味覚糖(株)
- ・ ナカガワ(株)
- ・ デンタルプロ(株)
- ・ 共和メディカル株式会社

本年度寄付を頂いた皆様

東 定子	石原 典子	斧原 周子	片岡 清夫
金本 裕光	小林 トヨ子	沢田 和義	館野 征子
平田 實	藤本 茂子	馬淵 ひづる	三鼓 真司
守下 雅美	横山 暎一	宮崎 キミコ	関 淳子
住田 猛			



2024年6月15日発行 発行者：NPO 法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085 大阪府中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 沢田歯科内

TEL：06-6252-0118

URL： <http://www.japandentalmission.org> E-mail： info@japandentalmission.org

＊本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを強く禁じます。

2023/07/13 09:26

バナアツ ペンテコスト島